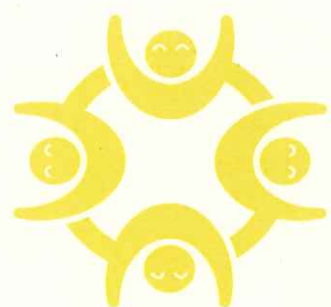


社会福祉法人かがやけ福祉会

2023年度事業報告 (令和5年度)

+

かがやけ福祉会 法人本部	1 頁
かがやけ共同作業所	1 2 頁
かがやけ第2共同作業所	1 5 頁
グループホーム	1 8 頁
相談支援センターかがやけ	2 0 頁



かがやけ

2023年度 法人本部事業報告

I 理事会の開催 年5回開催した。

第1回理事会（通算133回） 2023年5月26日

- 第1号議案 2022年度 事業報告
- 第2号議案 2022年度 決算報告
- 第3号議案 監事監査報告
- 第4号議案 2023年度 第1回評議員会の開催
- 第5号議案 次期役員候補者
- 第6号議案 役員等報酬規程の改正

第2回理事会（通算134回） 2023年6月21日

- 第1号議案 理事長及び常務理事の選任

第3回理事会（通算135回） 2023年10月18日

- 第1号議案 2023年度 第2回評議員会の開催

第4回理事会（通算136回） 2023年12月22日

報告事項

- (1) 監事監査報告
- (2) 内部監査報告

第5回理事会（通算137回） 2024年3月25日

- 第1号議案 福祉・介護職員処遇改善臨時特例交付金による賃金改善
(令和6年2月分から5月分)
- 第2号議案 2023年度 一次補正予算
- 第3号議案 2024年度 事業計画
- 第4号議案 2024年度 職員体制及び団体への派遣
- 第5号議案 2024年度福祉・介護職員等処遇改善加算による賃金改善
- 第6号議案 給与・退職金規程の改正
- 第7号議案 かがやけ共同作業所の運営規程の改正
- 第8号議案 2024年度 当初予算
- 第9号議案 役員等賠償責任保険の契約

II 評議員会の開催

年2回開催した。

第1回評議員会（通算81回） 2023年6月21日

第1号議案 2022年度 事業報告の承認の件

第2号議案 2022年度 決算報告の承認の件

第3号議案 役員等報酬規程の改正承認の件

第4号議案 次期理事・監事の選任の件

第2回評議員会（通算82回） 2023年10月31日

報告事項

(1) 理事長の職務執行状況報告

(2) 常務理事の職務執行状況報告

(3) 理事長専決処理報告

(給与・退職金規程の改正 通勤手当)

III 運営協議会の開催

年2回開催した。

第1回運営協議会 2023年7月10日

・2022年度事業報告・決算について

・2023年度事業計画・予算について

・運営協議会規程と委員名簿

法人報告及び各委員からの報告をおこなった。

第2回運営協議会 2024年1月19日

・理事長職務報告執行

・常務理事職務執行報告

法人報告及び各委員からの報告をおこなった。

VII 借入金の償還

かがやけ第2共同作業所建設借入金分として（2004年 5,250万円借入）

（単位：円）

	元金	利息	合計	償還期日
第36回次	2,620,000	41,920	2,661,920	2023.5.10
第37回次		20,960	20,960	2023.11.10
合計	2,620,000	62,880	2,682,880	

残高 2,620,000円

最終償還日 2024年5月10日

VIII 事業の展開

1 第二種社会福祉事業障害福祉サービス事業の経営

- ・ 生活介護 かがやけ共同作業所
- ・ 就労継続支援B型 かがやけ第2共同作業所
- ・ 相談支援事業 相談支援センターかがやけ
- ・ 共同生活援助（介護サービス包括型事業所） かがやけ寮
（ユニット：プリエ（旧かがやけ寮）、リベルテ、ラヴァンス）
- ・ 共同生活援助（介護サービス包括型事業所） エタンセール
（ユニット：エタンセール、アルクアンシエル、フューチャー）

2 公益事業

- ・ 葛飾区より在宅心身障害者緊急一時保護事業の受託

IX 今年度の事業報告

1. 経営・組織強化のために

(1) 理念の実現

2023年度は、全体会議ではなく事業所ごとの開催にし、4つの取り組みについて、クイズ形式をもちこみながら、楽しくかつ理念の再確認が出来るように工夫して、取り組みを行なった。また、アンケートを取り、職員一人ひとりの支援を振り返り、更に目指していかなければならない支援の在り方について共有した。

(2) 経営組織の確立と強化

法人事務局会、管理職会議を定例開催し、法人の課題や事業所の課題について論議し、法人運営の進捗状況の把握、進行、充実に努めてきた。

管理職会議は、月1回定期的に開催し、法人全体の課題の共有と管理や実践の交流を図ってきた。また、次期世代の管理者の育成として、求められる管理業務能力や実践推進の力量をつけるため、テーマを決め、研修や会議での学習会を位置づけてきた。研修として「管理職のメンタルヘルスケア」の動画を視聴、レポート提出し、事業所の職員の日々の健康管理について学んだ。

昨年起きたかがやけ第2共同作業所における個別支援計画のモニタリングの遅れについて、二度とこのようなことがおこらないよう、事業所をこえてのサービス管理責任者会議を相談支援と連携し行なってきた。その中で、事業所における実践の課題を共有し、サービス管理責任者の質を高めるため、学習会も行ってきた。

(3) 5か年計画の推進（2022年～2027年）

利用者、保護者、職員を対象に法人運営や支援内容の要望等のアンケートを取り、これを土台に、2022年からの5か年計画を作成してきた。今後この5か年計画に則り、計画を実施していく。

(4) 財政計画

5か年計画、財政計画について、各事業所の大規模修繕、新規施設整備について、数字を明らかにしてきたが、今後の実施についての評価検討、分析を行う時間を設ける事ができず、法人として論議が充分でなかった。

2023年度においては、収入については、ほぼ予算通りであり、また、予定外の大きな修繕もなかったことで、執行状況もほぼ予算通りとなった。

今年度、将来のために、施設整備費等積立金は、3千63万円積み立てることができた。

2023年度決算では福祉充実残額が生じなかった。

(5) 危機管理体制・災害対策・感染症対策

ア 防災対策

事業継続計画（BCP）を作成し、その内容を職員に周知するととも

に、研修と訓練を行なった。

イ 新型コロナ感染症対策

新型コロナ感染症が5類になったが、日常的な感染対策はいままで通り、様々な対策を講じてきた。

2023年度においても、全職員対象に、グループホームではPCR検査（週1回）、通所では抗原検査（週2回）を実施した。

また、感染が身近で発生した場合、感染リスクが高い利用者や職員への自宅待機の指示を行ってきた。

かがやけ共同作業所では、3月に利用者や職員の感染者が増え、軽症であったが、施設の閉鎖はしなかったもののクラスターとなった。グループホームでは全ホームに陽性者が発生し、ホーム待機を行う等、予断を許さない状況が発生した。いずれも軽症ですみ、元気に復帰できている。

しかし、しばらくその後遺症や、休みが続いたことで、体調の不調を訴える利用者がある。

行事については、少しずつコロナ感染症拡大前の状態に様子を見て、実行してきた。久しぶりに日帰り旅行やバーベキュー等、感染対策を十分に行いながらも行うことができ、利用者も楽しい日々を過ごすことができた。

① 新型コロナ発生状況

	4月			5月			6月		
	利用者	職員	合計	利用者	職員	合計	利用者	職員	合計
かがやけ共同作業所								2	2
かがやけ第2共同作業所		1	1	3	1	4	2		2
グループホーム									
合計		1	1	3	1	4	2	2	4

	7月			8月			9月		
	利用者	職員	合計	利用者	職員	合計	利用者	職員	合計
かがやけ共同作業所	3	7	10	4	2	6		2	2
かがやけ第2共同作業所	2		2				1	1	2
グループホーム		1	1	4	5	9		1	1
合計	5	8	13	8	7	15	1	4	5

	10月			11月			12月		
	利用者	職員	合計	利用者	職員	合計	利用者	職員	合計
かがやけ共同作業所		1	1	1	1	2	1		1
かがやけ第2共同作業所		1	1	1	1	2			
グループホーム		1	1	2	1	3	1	1	2
合計		3	3	4	3	7	2	1	3

	1月			2月			3月		
	利用者	職員	合計	利用者	職員	合計	利用者	職員	合計
かがやけ共同作業所	2	4	6	5	1	6	9	2	11
かがやけ第2共同作業所	3	4	7	1		1	1		1
グループホーム	3	4	7	6	5	11	7	2	9
合計	8	12	20	12	6	18	17	4	21

	合計		
	利用者	職員	合計
かがやけ共同作業所	25	22	47
かがやけ第2共同作業所	14	9	23
グループホーム	23	19	44
合計	62	52	114

②補助金の活用

- ・東京都新型コロナウイルスに係る障害者福祉サービス事業所等に対するサービス継続支援事業補助金

(6) 虐待防止対策の推進と強化

虐待防止委員会を年1回開催した。

各事業所職員代表で、東京都障害者虐待防止・権利擁護研修を受け、事業所ごとに研修報告及び、動画による研修会を行ない、支援の質の向上をめざした。研修会に参加できない職員に対し、チェックリストの活用やサポーターズカレッジの動画による研修をおこなってきた。日頃の支援を振り返る良い機会になった。

また、身体拘束の適正化を図るための対策を検討する委員会を事業所ごとに開催し、支援の質の向上をめざした。

(7) 内部監査の充実

法人内での内部監査（5月、11月）を実施するとともに、監事による中間監査（11月）を実施し、業務内容を見直す機会を設け、理事会に報告した。

(8) 職員の働きやすい職場づくり

送迎業務のあるかがやけ共同作業所において、事故防止と運転経験の浅い職員の新人教育の一環として、自動車学校の「安全運転講習」に職員を派遣した。

メンタルヘルス研修を管理職研修として行い、不安や悩みを抱える職員に対し、気軽に相談できるように体制を整えてきた。

引き続き、職員が安心して働き続ける職場めざし、職場の労働環境改善のための課題整理、課題解決のための方策を話し合う場を設ける。

労働条件改善について次のことを行ってきた。

- ・引き続き、処遇改善加算、特定処遇改善加算の取得による賃金改善
- ・福祉・介護職員処遇改善臨時特例交付金及び福祉・介護職員ベースアップ等支援加算による賃金改善
- ・引き続き、若手職員の給与改善（基本給22万円未満の職員を対象に特別昇給）
- ・新型コロナウイルス感染症対応手当規程により、感染の疑いのある者への支援、陽性者の支援、濃厚接触者への支援をした職員に対し手当を支給した。

延べ 75名 1,026千円

内訳	かがやけ共同作業所	延べ9人 54,000円
	グループホーム	延べ66人 972,000円
補助金	継続支援事業補助金	462,000円

(9) 運営協議会、合同保護者会の充実

運営協議会は、第1回7月10日、第2回1月19日に開催し、法人報告及び各委員からの報告をおこなった。

合同保護者会は、新型コロナウイルス感染症予防のため、開催しなかった。

(10) かがやけ福社会後援会との連携

担当理事をきめ、後援会事務局会議に参加することで、連携を図ってきた。

2. 事業と実践の展開

ア. グループホームのユニット増 新設計画

検討はできなかった。

イ 修繕計画

かがやけ共同作業所の外壁工事の検討はできなかった。

ウ 今後の新規事業の検討

短期入所の開設、日中支援型グループホームの検討はできなかった。

3. 人財の育成

(1) 人財確保・採用（常用職員）

民間求人サイトによる職員募集に力を入れてきた。

採用

4月1日採用

かがやけ共同作業所	生活支援員	2名（新卒）
かがやけ第2共同作業所	職業指導員	1名（新卒）
グループホーム	世話人	1名（経験者）

退職

年度内に5名が退職した。

かがやけ共同作業所	生活支援員	2名
かがやけ第2共同作業所	職業指導員	1名
グループホーム	世話人	1名
相談支援センター	相談支援専門員	1名

(2) 人財育成

かがやけ福祉会の歴史、理念の継承のため、管理者の育成や次世代の人財育成に力を入れ、目的意識的な人財育成を進めてきた。

ア 職員ハンドブックの作成に取り組みます。

作成の準備をしてきたが、完成にはいたらなかった。引きつづき、作成に取り組んでいく。

イ 管理職職員の研修の確立をしていきます。

管理職として求められる管理業務能力や実践推進の力量をつけるため、テーマを決め、研修をおこなってきた。

2月から3月

「管理者のメンタルヘルスケア」

サポーターズカレッジ視聴とレポート提出

ウ 資格取得支援規定を活用し、資格取得を促します。

資格取得支援規程活用職員1名

エ 研修システムに基づき、内容の充実を図り、職員の資質向上に努めます。

① 新人研修

・チューターを配置し、新人育成をはかった。

なお、年度中採用の職員については、翌年度実施予定である。

・法人研修担当者会主催の新規職員研修を実施した。

・サポーターズカレッジを活用した新人研修の開催を実施した

・東京都社会福祉協議会主催の階層別研修を受講した。

・職場交換研修の実施は、取り組むことができなかった。

②実践充実のための研修

- ・新人職員研修（法人内） 4月21日、26日
2024年 3月11日、14日
- ・外部講師による法人全体研修の実施
6月16日
「障害者権利条約 総括所見と諸課題」 講師：崔 栄繁氏
11月24日
「意思決定支援」 講師 奥山 直廣氏
- ・実践報告会の実施
2024年2月29日 オンライン研修
職員のレポート発表による実践報告
「本人を中心に据えた支援を大切に、医療・多職種連携を考える」
かがやけ共同作業所 報告
就労支援報告 かがやけ第2共同作業所

③ 外部研修への派遣（各事業所報告参照）

- ・階層別研修への研修派遣
- ・専門研修への研修派遣

4. 地域への取り組み

(1) 広報活動の充実

ア ホームページの充実

ホームページの更新を適切な時期に実施した。

イ かがやけニュースの紙面の充実

かがやけニュースを、5月・7月・9月・12月・2月・3月の6回発行した。

(2) 地域における公益的な取り組み

きょうされん映画「星に語りて」の上映会を2月21日に実施した。この映画は東日本大震災時に、障害のある方々、家族、作業所が直面した現実を描いているものである。まさに1月に起きた能登半島の地震災害とも重なり、災害時に障害のある方、地域と連携しながら、利用者の命をどう守るか、事業所をどう守るか、考えるよい機会となった。

地域の障害者施設や学校や関係団体にチラシを配布し、当日一部二部通して268名の来場者があった。

(3) 地域との諸団体との連携

法人主催の地域に向けた学習会の開催や防災についての情報交換や連携などは、取り組むことができなかった。

2023度 かがやけ共同作業所事業報告

今年度は当初利用者数52名、退所者は入所施設へ異動1名、病気で亡くなられた方が1名おり年度末利用者数は50名、年間平均利用率は86%（昨年度82%）であった。

新型コロナウイルス感染症の予防措置を講じたうえで、今年度は2020年度から中止していた各班の「バス旅行」（今年度は日帰り）、「秋のなかままつり」を再開し、毎月の外出も少人数による「個別外出」を始めた。利用者の希望から所内で「ミニ運動会」や「ねふた祭」をテーマにした夏のレクリエーションを実施した。

生産活動（作業）は、受注作業では学習教材のセットを主体に、情報誌のポスティング、チラシ折り、シイタケの仕分け作業に取り組んだ。公園・児童遊園の清掃作業と資源回収の屋外作業については夏季の気温上昇や利用者の高齢化により職員の作業負担が増してきている。自主製品はクッキー・羊毛フェルト製品・花たわし・ビーズ製品等を制作し、他団体のイベント等の外部販売にも出店した。「秋のなかままつり」の収益も合わせ昨年度の作業収入4,570,389円を上回る4,979,988円の収入があり、平均工賃も昨年度以上の月額6,710円を支給できた。

健康管理では、新型コロナウイルスの感染者が昨年度を上回る利用者25名、職員22名おり、3月には一週間に10名以上の感染者が発生しクラスターとなった。幸い感染者は全員軽症であったが後遺症と思われる症状が出る方もいた。胃ろうが必要になった利用者に対して生活支援員による医療的ケア実施のため、たん吸引等の研修を受講し体制を整えたが、食事摂取が可能となり実施しなかった。疾病の早期発見のため利用者健診時に腫瘍マーカーのオプション検査を希望者に行い、医療機関の受診につながる方がいた。腰痛を発症した利用者には内科受診を勧め通院同行を行った結果内臓疾患が判明したが、病気の進行が早く6月にお亡くなりになった。機能維持やリハビリについては理学療法士の指導も受けながら必要な方のプログラムを作成し取り組んだ。法人内相談支援センターと連携し、入所施設への異動や訪問診療・看護の利用、介護保険の短時間通所リハビリテーションの利用につなげた。

事故は利用者の転倒等による打撲等が6件（うち通院3件）、車両の物損事故が3件、職員の労災事故が1件発生、その都度職員会議で報告し改善策を検討実施した。車両内の置き去り事故防止のため乗車名簿による乗降チェックを徹底するとともに、全車両に東京都の補助金を活用し置き去り防止装置を装着した。

葛飾区の補助金を活用し車両を1台買い換えた。災害時等の事業再開を円滑すすめるため、自然災害発生時と新型コロナウイルス感染症発生時の事業継続計画（BCP）を作成し研修・訓練を実施した。実習生は専門学校4名、盲学校1名を受入れた。11月に外部機関による福祉サービス第三者評価を受審した。

I 利用者状況 (2024年3月31日現在)

1. 事業種別 定員

- ・事業種別 生活介護事業
- ・定員 55名

2. 各月利用者数

(単位：人・%)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
前月末	52	52	51	50	50	50
当月初	52	52	51	50	50	50
当月末	52	51	50	50	50	50
入所者	0	0	0	0	0	0
退所者	0	1	1	0	0	0
利用率(%)	88	87	87	85	86	87
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
前月末	50	50	50	50	50	50
当月初	50	50	50	50	50	50
当月末	50	50	50	50	50	50
入所者	0	0	0	0	0	0
退所者	0	0	0	0	0	0
利用率(%)	86	87	88	86	85	83

- ・退所者 5月25日、入所施設へ異動のため1名退所
6月30日、病気死亡のため1名退所
- ・年間平均利用率 86%

3. 男女別 男性28名 女性22名

4. 居住地別 葛飾区 49名 白井市 1名

5. 年齢別

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	平均年齢
男	0	6	6	6	6	3	1	44歳
女	0	3	3	3	11	1	1	48歳
計	0	9	9	9	17	4	2	46歳
%	0	18	18	18	34	8	4	

6. 障害支援区分別

区分	人数
6	21
5	14
4	11
3	4
2	0
1	0
未判定	0
合計	50

※平均区分5

7. 通所方法	送迎利用者	40名 (全7コース)
	家族送迎者	2名
	自主通所者	8名

II 職員状況

1. 職員配置

1) 管理者	1名 (常勤1名)
2) サービス管理責任者	1名 (常勤1名)
3) 生活支援員	16名 (常勤14名、非常勤2名)
4) 看護職員	2名 (非常勤2名)
5) 栄養士	1名 (常勤1名)
6) 調理員	4名 (非常勤4名)
7) 事務員	1名 (常勤1名)
8) 運転職員	0名

※兼務表記省略 2024年3月31日現在

2. 職員数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
常勤	19	19	19	19	20	20
非常勤	11	11	11	11	10	10
計	30	30	30	30	30	30
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
常勤	20	20	20	20	20	20
非常勤	8	8	8	8	8	8
計	28	28	28	28	28	28

各月当初人数

2023年度 かがやけ第2共同作業所事業報告

今年度は2名の新入所者を迎え最大55名の利用者が在籍。退所者は2名。平均年齢41.1歳、年間平均利用率84.2%。

利用者支援では、日々のコロナ感染防止対策を取った上で作業、給食、イベント、クラブ活動などに取り組んだ。感染者は利用者14名、職員9名で全員軽症であった。お菓子班では、喫茶の営業時間を10時30分～15時に延長、Instagramを利用した情報発信を行い、加盟する元気食堂としてのPR効果もあり、かつしかプレミアム商品券の利用率も昨年度比で高く、お子様連れや若い世代の客層が増えた。新規販売イベント(東社協SESSION、四ツ木斎場イベント、かつしか緑化フェア)に参加した。販売する商品の製造日を固定化しお客様にも販売日を分かりやすくした。

調理班では、弁当価格を650円に値上げし1年以上経過、当日注文は1日平均30食前後、喫茶店内では1日平均10～12食。春夏冬の長期休み期間には学童保育より1日100食以上、学童数は1か所増の10か所から注文を受け夏3900食、春1500食(概算)と過去最高数となった。7月「七夕天ぷら弁当」、12月「クリスマスチキン」、1月「新年会弁当」、2月「恵方巻」、3月「ちらし寿司」の企画弁当も定着。外部団体からの大口注文として日枝神社9/10、AARJapan9/14、他から注文を受けた。メニューは利用者が複数の料理雑誌を参考に意見を出し合って決めた。

受注班では、今年度も34名を3部屋に分け東栄社、精和産業、北星鉛筆、COLOR、東京金属工業、葛飾区共同受注と複数の会社を窓口として様々な作業に取り組むことができた。特に共同受注からのアニメキャラクタークリアケースは、利用者の興味を惹き意欲向上につながった。公園清掃では除草範囲を縮小、トイレ清掃は施設内での清掃練習など担い手育成を行った。今年度平均工賃月額23,202円(前年度20,117円)、今年度就労支援事業収入24,100,421円(前年度22,368,888円)。

就労支援では、区役所実習18名、所内実習15名への実習準備支援、実習場所や作業の確保等の支援を実施、一般就労者との連絡会「チャレンジ会」(2回)では就業中の悩みや体調不良の確認や就労先保育園職員との打合せ(1回)を行った、9月末に1名が退職。

クラブ活動として創作クラブ、マラソンクラブ、昼休みの階段昇降と放送委員会を実施。また5月就労、11月署名、3月健康について学習会を企画実施した。にいじゅくまつりを4年振りに開催、一泊旅行は中止し日帰りバスハイク(群馬県ガトーフェスタハラダ他)として楽しんだ。身体拘束適正化委員会を開催し拘束時の3要件と適正化の検討を行い、検討内容を書面にて職員に報告した。

その他、保護者会は今年度8回開催。給食では、減食8名、小カット4名対応、管理栄養士による助言相談を個別支援計画の面談時に実施、毎月1回セレクトメニューを行ない利用者の好評を得た。避難訓練は7回(内引渡し訓練1回、BCP対応訓練1回)実施。感染症BCP対応の研修と訓練1回実施。実習は、支援学校生3名、中学生職場体験3名、インターンシップ1名を受入れた。第三者評価を受審。エアコン3件、シンクロヒータ1件、他2件の点検・修理等実施。職員健康管理として産業医と連携。事故発生件数、車両事故3件、職員労災事故5件(通勤2支援中3)、利用者事故0件。

I. 利用者状況 (2024年3月末現在)

1. 事業種別 定員

・事業種別 就労継続支援B型 ・定員 60名

2. 各月利用者数

(単位：人・%)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
前月末	53	54	54	55	55	55
当月初	54	54	54	55	55	55
当月末	54	54	55	55	55	55
新入所者	1	0	1	0	0	0
退所者	0	0	0	0	0	0
利用率	86.8	82.6	85.9	86.2	84.6	83.5
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
前月末	55	55	54	54	54	54
当月初	55	55	54	54	54	54
当月末	55	54	54	54	54	53
新入所者	0	0	0	0	0	0
退所者	0	1	0	0	0	1
利用率	83.2	81.5	85.1	84.4	82.4	84.5

年間平均利用率 84.2%

・入所者 4月 1日 白鷺特別支援学校から1名入所

6月16日 就労継続支援B型事業所から1名入所

・退所者 11月30日 病気死亡のため1名退所

3月31日 就労継続支援B型事業所へ異動のため1名退所

3. 男女別 男性38名 女15名

4. 居住地別 葛飾区52名 江戸川区 1名

5. 年齢別

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	合計	平均年齢
男	1	5	13	10	5	4	38名	42.2歳
女	0	3	7	4	0	1	15名	38.3歳
計	1	8	20	14	5	5	53名	41.1歳
%	1.9	15.1	37.8	26.4	9.4	9.4	100.0	

6. 障害支援区分別

区分	人数
6	0
5	2
4	13
3	16
2	1
1	0
未判定	21
合計	53

7. 通所方法 自主通所 53名

II. 職員状況 2024年3月末現在

1. 職員配置

- 1) 管理者 1名 (常勤1名)
- 2) サービス管理責任者 1名 (常勤1名)
- 3) 生活支援員 1名 (常勤1名)
- 4) 職業指導員 13名 (常勤10名・非常勤3名)
- 5) 目標工賃達成指導員 1名 (常勤1名)
- 5) 就労支援員 1名 (常勤1名職業指導員兼務)
- 6) 栄養士 1名 (常勤1名)
- 7) 調理員 2名 (非常勤2名)
- 8) 事務 1名 (常勤1名)

2. 職員数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
正規	12	12	12	12	12	12
期間契約	9	9	9	9	9	9
計	21	21	21	21	21	21
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
正規	12	12	12	12	12	12
期間契約	9	8	9	9	9	9
計	21	21	21	21	21	21

各月当初人員

2023年度 グループホーム事業報告

2023年度、グループホームの利用者は、3月31日現在33名である。

2023年度において、ラヴァンス・ブリエ利用者2名の保護者（父親）が亡くなり、また、保護者が病気で倒れる等、365日グループホームで生活を過ごす利用者が増え、主体的な生活をどう送るか、成年後見人制度等の活用をどう進めていくかが大きな課題となった。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、グループホームにおいて、利用者23名、職員19名が新型コロナウイルス感染症に罹患し、利用者、職員も不安な日々を送ることがあった。症状はいずれも軽症であり、回復し日々の生活に戻ったが、しばらく後遺症で体調を崩す利用者もいた。その中で、行事を再開し、少しでも楽しい生活が送れるよう、バーベキューやバスハイクに取り組み、充実した生活へとつなげることができた。

ホーム全体の利用者が高齢化し、機能低下、認知障害、精神的な落ち込み、意欲低下等がある。2023年度は、肺炎で入院した利用者が、食事がとれなくなり、胃ろうを造設したため、訪問看護導入、看護師採用、東京都介護職員による痰の吸入等の研修へ職員を派遣、更に日中支援を行ない、本人がホームでの生活を継続できるよう、取り組みを進めた。数名の利用者については医療、介護、後見人等、専門分野の方々の意見を日々とりいれながら、支援を充実してきた。健康のために、地域の理学療法士の協力や訪問の機能訓練マッサージを取り入れるなど、機能低下を防ぐ取り組みも引き続き行った。

第三者評価を9月に受審した。

事業継続計画（BCP）を作成し、研修・訓練をおこなった。

事故については、利用者の服薬忘れが5件、服薬ミス（誤薬）が2件、怪我（打撲）が1件。火災報知機の誤通報が1件、車両事故が1件、労災事故が1件あった。

1 定員と現員

(単位：人)

ケアホーム	ユニット	開設年月日	定員	現員		
				男性	女性	合計
かがやけ寮	ブリエ	H11. 12. 1	5	4	1	5
	リベルテ	H24. 4. 1	4	3	1	4
	ラヴァンス	H29. 6. 1	4	2	2	4
エタンセール	エタンセール	H14. 3. 1	7	4	3	7
	アルクアンシエル	H18. 5. 1	6	4	2	6
	フューチャー	R3. 5. 1	7	4	3	7
合計			33	21	12	33

2 利用者の状況 (年齢の状況)

(単位：人)

ユニット	20代	30代	40代	50代	60代以上	合計
ブリエ		1	1	1	2	5
リベルテ			1	2	1	4
ラヴァンス		1		3		4
エタンセール			2	4	1	7
アルクアンシエル		1	3	2		6
フューチャー		1	2	4		7
合計		4	10	16	3	33

3 利用者の状況 (障害者支援区分の状況)

(単位：人)

ユニット	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
ブリエ			2	2	1		5
リベルテ				2	2		4
ラヴァンス			2	2			4
エタンセール				1	1	5	7
アルクアンシエル				1	3	2	6
フューチャー					3	4	7
合計			4	8	10	11	33

第2章 職員状況

職員配置（2024年3月31日現在）

エタンセール

(1) 管理者	1名（常勤兼務）
(2) サービス管理責任者	1名（常勤）
(3) 世話人	11名（常勤）
(4) 生活支援員	21名（常勤6、非常勤15）
(5) 事務	3名（常勤1、非常勤2）
(6) 看護師	1名（非常勤）

かがやけ寮

(1) 管理者	1名（常勤兼務）
(2) サービス管理責任者	1名（常勤）
(3) 世話人	4名（常勤4）
(4) 生活支援員	16名（常勤1、非常勤15）

2023年度相談支援センターかがやけ事業報告

2023年度は、かがやけ福祉会が運営している事業所の利用者及び地域において障害福祉サービス事業を利用している方へのサービス等利用計画の策定を行ってきた。サービス等利用計画は、173件（内法人外95件）、モニタリング報告は、316件（内法人外181件）を進めてきた。

定期的利用計画の更新やモニタリング報告の他、家族の病気や介護力低下などによって、本人に新たなニーズが生じた場合には、必要に応じて計画案の内容変更（家事援助、短期入所、GH入居等）を行ってきた。

介護者の高齢化等により、利用者の支援とともに、介護者の介護サービス事業所等との連携を行うケースが増えてきた。

就労移行支援から一般就労となり、6か月後の就労定着支援の利用者が昨年度より3名増えた。

相談支援専門員としての専門知識の習得や支援技術向上のため、今年度も積極的に研修に参加をしてきた。

葛飾区主催・民間事業所運営（身体・知的相談支援部会・分科会一サロン）の研修への参加、および企画委員として1名が相談支援専門員研修の運営に携わってきた。

2023年10月より、葛飾区基幹相談支援センターが開設され、人材育成（相談支援専門員等）の研修は、社会福祉法人武蔵野会の相談支援事業所が担うことになった。

第1章 利用者状況

1. 各月サービス等利用計画・モニタリング策定数（ ）法人外在宅者等・内数

	サービス等利 用計画	モニタリング	小計 (件)		サービス等利 用計画	モニタリング	小計 (件)
4月	14(10)	32(20)	46(30)	10月	19(8)	30(22)	49(30)
5月	16(10)	25(16)	41(26)	11月	7(5)	26(14)	33(19)
6月	15(4)	26(17)	41(21)	12月	8(5)	22(5)	30(10)
7月	11(6)	25(18)	36(24)	1月	15(12)	22(13)	37(25)
8月	17(9)	36(22)	53(31)	2月	16(8)	22(8)	38(16)
9月	22(10)	30(21)	52(31)	3月	13(8)	20(5)	33(13)
小計	95(49)	174(114)	269(163)	小計	78(46)	142(67)	220(113)
				合計	173(95)	316(181)	489(276)

第2章 職員状況

1. 職員配置

- 1) 管理者 1名（相談支援専門員兼務）
- 2) 相談支援専門員 1名